

平成25年度第4回 高砂市スポーツ推進計画検討会議

平成26年2月6日(木) 19時00分高砂市スポーツ推進計画検討会議を高砂市役所南庁舎2階会議室2において開会

出席委員	議長	森田 啓之	委員	加茂 朋之
	副議長	藤原 良文	委員	松陰 英人
	委員	砂川健次郎	委員	佐藤 章徳
	委員	鎌谷 正士	委員	山田 みえ
	委員	水王 征子	委員	中村 香織
	委員	池田 政隆	委員	島本 卓

出席事務局職員

健康文化部長	橋本 保正
健康文化部長	猪子 真一
くらしと文化室長	
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課長	東野 哲也
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課主幹	福原 裕子
健康文化部くらしと文化室文化スポーツ課係長	前川 吉也

協議事項

- 1 開 会
- 2 あ い さ つ
- 3 議題 高砂市スポーツ推進計画(素案)について
- 4 そ の 他
 - (1) 今後のスケジュールについて
 - (2) 次回開催予定日
平成26年 月 日 () 19:00~
- 5 閉 会

(午後 7時03分 開会)

○事務局

それでは、定刻を過ぎましたので、ただいまより第4回高砂市スポーツ推進計画検討会議を開催いたします。

開催に先立ちまして、当会議の公開についてですが、高砂市スポーツ推進計画検討会議の運営に関する規定に基づき、公開とさせていただきます。

ただし、傍聴希望者は本日はおりませんので、よろしくお願いいたします。

委員の皆様におかれましては、お忙しい中、ご出席していただきましてありがとうございます。

まず、お手元の資料の確認をお願いいたします。

(資料確認)

では、次第により進行いたしますので、よろしくお願いいたします。

まず、開会に当たりまして、議長よりご挨拶をお願いいたします。

○議長

(あいさつ)

○事務局

ありがとうございました。

今後の議事進行については、議長をお願いいたします。

○議長

それでは、早速、議題に入りたいと思います。

高砂市スポーツ推進計画の素案について、事務局から説明をお願いします。

○事務局

それでは、スポーツ推進計画素案の概要についてご説明いたします。

なお、事前に委員の皆様にお送りしております資料ですが、資料1、資料2、資料4について、送付後、見直したところが数箇所ございます。それと、新たに資料5を配付させていただきますので、本日お配りしました資料のほうをごらんください。

主な見直し箇所は、資料2の第2章でございます。アンケートとこの検討会議のご意見をもとに、高砂市における現状と課題を追加しております。

第4章で、その課題に対応する形に、基本方針の体系を整理し直しています。スポーツ環境の整備は全体にわたることとして、3つ目に持っていき、基本方針2と基本方針3の順番を変えております。これに伴い、資料1の体系図も見直ししております。

資料4の基本理念案は、案を3つに絞ってお示ししております。

また、資料5について、高砂市総合計画の生涯スポーツの部分を新たに配付しておりますので、本日、お配りしました資料のほうでお願いいたします。

まず、資料1をお願いいたします。

資料1は、スポーツ推進計画の体系図でございます。

まず、基本理念があり、次に、1、生涯にわたるスポーツの推進、2、スポーツによる地域の活性化、3、スポーツ環境の整備の3つを基本方針としております。それぞれの基本方針についての施策を、基本施策に掲げており、各施策の推進の方向をお示ししております。

次に、資料2ですが、高砂市スポーツ推進計画(素案)でございます。

第1章から第5章までに分類しております。最後に資料編ということで、本日は添付いたしてはおりませんが、委員名簿、会議の検討経過、アンケートの結果を添付する予

定にしております。

では、第1章から簡単にご説明いたします。

まず、3ページ、第1章ですが、計画策定に当たって、「趣旨」、「本計画におけるスポーツの概念」、「計画の意義」を掲げております。

4ページで、計画期間を10年としております。

次に5ページ、第2章では、スポーツを取り巻く全体の環境を示し、6ページ、7ページでは、この会議において、委員の皆様方からいただいたご意見やアンケート結果に基づき、高砂市における現状と課題をまとめております。

続きまして、8ページ、第3章は、この計画の基本理念でございまして、空白のところに基本理念を入れるようにしております。

基本理念の案を資料4で、案を3つお示ししておりますので、後ほどご意見をいただきますようよろしくお願いいたします。

次に、2で、スポーツ憲章を記載しております。

続きまして、9ページから12ページまでは、第4章、施策推進の方向でございまして、基本方針を3つに分類し、それぞれの方針の基本施策を記載しております。後ほど、各施策についてはご説明をいたします。

次に、13ページ、14ページをお願いいたします。

第5章、市民が一体となった計画の総合的推進でございまして、

この計画の推進には、市民、団体、行政等の連携があって初めて実現できるものであり、それぞれの役割を掲げております。

15ページは、そのネットワークのイメージ図でございまして、

この後、第3章の基本理念の空白の部分について、資料4を参考に、この場で皆様からご意見をいただければと思います。

以上で、簡単ではございますが、説明を終わらせていただきます。

○議長

かなり盛りだくさんな内容を駆け足で言っていたので、もう一度ゆっくり確認をしていきたいと思っております。

まず、資料2の第1章、ページ数は3ページ、4ページをごらんください。こういう計画を立てるときに、常套というか、いつもパターンとして大体盛り込まれる中身をまとめてくれています。

1つ目は、計画策定の趣旨というところで、あと、文言が増えるとか、もう少し肉づけをすとか検討をする必要があるかもしれませんが、一応、内容としましては、こういう計画が実際になぜ必要になってくるのかというふうなあたり、2つ目、これは用語の定義になりますが、スポーツというのを広く捉えて使いますよというような話。3つ目は、この計画が上位のスポーツ基本法であるとか、あるいは高砂市の中での市の総合計画とどう絡みますというような話が入ってございまして、さらに、これもやはりですが、何年間をくりで、それに向けて、ここでは10年間としていますが、やっていきたいと思いますというような表現をしています。

まず、どのようなことでもいいので、3ページ、4ページのところです。ちょっと見ていただけたらと思っておりますが、いかがでしょうか。

特によろしいでしょうかね。

そうしましたら、またありましたら、後からでも結構ですので、第1章は、計画の趣旨を扱うような部分というふうにご理解ください。

続いて、第2章は、具体的にスポーツとか人間の生活がこんなふうに変ってきているので、また、今までとは違う取り組み、あるいはさらに強化するような取り組みが必要ですよということを導き出すための第2章になってきます。スポーツを取り巻く現状

と課題について、そうしましたら、詳しく事務局のほうから説明をお願いします。

○事務局

5 ページをお願いいたします。

スポーツを取り巻く環境として、まず、子どものスポーツですが、(1)子どものスポーツ。

近年の都市化や情報化などの社会環境の変化に伴い、テレビゲームなど室内遊びの増加や屋外での遊び場の減少など子どもたちの生活環境に大きな変化が生じています。そのため、外遊びを奨励し、スポーツの楽しさ、重要性を啓発することで、子どものスポーツに関する関心、意欲を高めるとともに、学校だけでなく地域で安心してスポーツを楽しむ環境づくりが必要です。

(2) 成人のスポーツ。

市民のスポーツへの関心や意欲は高いものの、継続的に実施するまでには至っていません。その理由として時間がないこともあります。市民が継続的にスポーツに親しむようになるためには、個々のライフスタイルに応じた施設の利用方法と多様な参加機会が必要です。

(3) 高齢者のスポーツ。

ウォーキングやグラウンドゴルフなどを楽しむ高齢者が増えています。これからは、スポーツの持つ健康や体力づくりの効果を活かすだけでなく、スポーツが、多様な活動を通じた交流の場として、生きがいづくりにつながる必要があります。

(4) 障がい者のスポーツ。

障害のある人にとってのスポーツは、障がいの程度の維持や改善、健康の維持増進という側面だけでなく、障がい者の自立と社会参加の促進に寄与するという大きな役割があります。障がい者が身近な地域でスポーツを楽しむことができるような機会を設けることや、環境等の整備が必要です。

(5) スポーツに関する環境。

市民のスポーツへの参加意欲を促進するためには、誰もが気軽にスポーツができるよう、スポーツを支える人材の育成、施設の整備、情報発信など、スポーツ環境の整備が必要です。

次に、6 ページをお願いいたします。

これは、高砂市スポーツに関する市民アンケートの意見欄と、資料3にお示ししていますが、この検討会議での委員の皆様からの意見をもとに、高砂市における現状と課題をまとめたものでございます。

1番の子どものスポーツの状況について、①番として、ゲームをして、外へ出ない。②番、あまり運動をしない子どもが、運動に関心を持ってもらえるように取り組む必要がある。③精神面の指導も行っていく必要がある。④未就学児がいても、参加できる企画が少ない。⑤小学生の頃からスポーツに親しむ環境をつくる必要がある。⑥スポーツを通じて、相手の痛みがわかり、礼儀をわきまえる人間を育てるべき。⑦試合に勝つことも大事だが、子どもの頃は成長過程を大事にする必要がある。

2番の成人のスポーツの状況につきまして、①素人がスポーツを始めにくい。②経験者もやめてからの再開が困難。③いつでも気楽に運動できるような環境が必要。④子どもを含めたスポーツがあれば参加しやすい。⑤何かきっかけがあれば運動する。⑥小学校・中学校・高校と、継続してスポーツに取り組める環境が整っていない。⑦気軽にトレーニングできる施設が少ない。⑧仕事をしている人が施設を利用しやすいように、仕事帰り又は休日に利用できる施設が少ない。⑨スポーツの情報が入りにくい。

3番、高齢者のスポーツの状況につきまして、①スポーツをしている高齢者は元気な人が多い。②生涯にわたってスポーツ活動ができるような体制が必要。③少しでも多く

の人が休まずスポーツを楽しめる環境づくりが大切。

4番、障がい者のスポーツの状況について、①障がい者が参加できるスポーツが必要。②駐車場、出入口など、障がい者に対する環境が整備されていない。③車椅子での施設利用の制限がある。④安心できる指導者の不足。

5番、競技スポーツの状況について、①オリンピック選手を輩出している。②競技スポーツでの指導者が多い。③プロ選手による指導は効果がある。

6番、スポーツ施設の状況について、①スポーツ活動の場所が限定される。②施設が老朽化している。③スポーツ施設が車でしか行けないところに多い。④スポーツ施設の維持、管理が不十分。⑤ナイター施設が少ない。

以上が、本市における現状と課題でございます。

○議長

ありがとうございます。

まず、私のほうから補足をしたいと思うんですが、事前にお配りしたところに加えて、まず、本市における現状と課題が追加をされています。打ち合わせをしたときに、私も見て思ったのが、このタイトリングもちょっと問題がある、実行しないといけないと思うんですが、いわゆる1のスポーツを取り巻く環境というのは、どう見ましても、一般論の話になっているなあと。それで、当然、人間が生活しますので、共通なのですが、高砂市としての現状をやっぱり書く必要があるし、それに応じた課題を書かないといけないのではないかなというふうなお話をさせてもらいまして、この第2章が1、そして2というふうになったというふうに、まずご理解をいただけたらと思います。

その上で、今の現状を見る視点も、実際にスポーツをするという立場からいくと、子ども・成人・高齢者、そして障がい者という観点が抜けていましたので、それも追加してはどうかというふうな提案をさせてもらって、そこに入っているというふうにご理解ください。

その上で、意見を言ったのが2日前なので、そこから突貫工事でプラスアルファしてくださっています。そういう意味では、まだまだこなれていない部分があるので、遠慮なく、それぞれの皆さんの感想でもいいですし、意見、訂正したらどうかなみたいなのがありましたら、ちょっとこの第2章のところです、一番、多分私は重要になってくると思いますので、どのような角度でも結構ですから、ご意見いただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

1つ、第2章のスポーツを取り巻く環境の仕分けの中で、子どもの次にもう成人が来てありますけど、何となく、その間に青少年というのがあるんじゃないかなという、子どものこの項目では非常に小さな子どもを頭に置いての書き方で、いきなりもう成人にぼんと入ってしまっているんで、逆にこの間に青少年というの、仕分けとしては何かあるのかなというふうに思っています。その辺を入れる必要があるのか、ないのか。もっと子どものところにも青少年という枠でいってしまうのがいいのかどうか、ちょっとそれを聞かせてください。

○委員

同じような意見ですが、この枠組みを見まして、子ども、成人、高齢者という分け方よりも、少年・青年・壮年・熟年というふうな分け方にさせていただいたほうがいいのではないかな。どこで言おうかなという気もあったのですが、委員が言われましたので、少年・青年・壮年・熟年というところで、私は少年というのは育てるスポーツであると。子どもを育てないといけない。どのように育てるかと言われたら、やっぱり健全な子どもを育てることですよね。そして、青年になりましたら鍛える、まず鍛えるというのは、何も体だけを鍛えるのではなくて、自分に負けないとか、いろんな環境に負け

ない強さを持った青年を鍛える、そういうふうに鍛える。壮年となりましたら養うスポーツ、自分の体を養いながら、また、近隣の人にも、その養うというところを伸ばしていく。熟年というのは、健康の健で健やか、より長生きができるように、自ら健やかな生活を送ってくださいと。その中でスポーツを楽しみながらやっていただけたらどうかなという。

ここで言うか、それとも次の要旨のところで言おうかなと思ったんですけども、まず委員が言いかけられましたので、あわせてお願いできたらなという気持ちです。

○議長

今、出た意見ですね、当然、生涯通じて人間が生まれてから最後を迎えるまで、ずっと運動とかスポーツとかかわっていききたいなという、そういつてほしいなという中で、まさにおっしゃるように、それぞれライフステージの中で課題が違うので、それに応じた、どういうくり方をしたほうがわかりやすさをもってあるかというふうな点だと思います。

○委員

私もあまり細かくし過ぎるのはよくないとは思うんですけども、成人というのは、一番幅広い特性の方がいらっしゃるころだと思いますので、変に一つに区切ってしまわないほうがいいのか。考え方として、いろいろな成人の方向けの何かそういうコメントだとか、そういう意見なんか、いろいろな視点で見れるような形にしたほうがいいのかと思いました。

○議長

そのほかいかがでしょうか。

今のお話、恐らく、二十歳ごろから、学校期を卒業してからが大体成人なわけですが、例えば、会社勤めをされている方もいらっしゃるし、子育て中のお母さんもいらっしゃるし、かなり幅がね。当然、それぞれ置かれている状況が違うというふうに考えた場合には、そのあたりもどういうふうにするかというところがあるかなという気もしますね。

とりあえず、現時点では結論を、最後まで一通りちょっと見ていただきながら考えていきたいと思うので、中身の表現とか、この記述はどうだろう、あと何か抜けてないかなとかいうあたり等も含めて、まず、5ページのあたりを見ていただけたらと思います。

○委員

表現という話がありましたけれども、この第2章の1は、環境について述べているので、全ての項目、環境全体のことを言って、後に何々が必要ですと結論づけているんですけども、ここはまず環境だけを述べて、後でどうしたらいいかというのも記載してはいかがかなと。環境と、何か今後に向けてというところまで含まれている気がするの、具体的に書けないのかなという感じがします。

○議長

今のは、例えばどんな感じになりますかね。一つちょっと例で言っていたら。

○委員

例えば3番の高齢者のスポーツは、環境という面では、最初の1行目で終わってしまっていて、そこから次、今後、どうしたらいいかという話になっているんですけども、まず、その環境で、どういう状況だというのをしっかり述べておいたほうがいいのかと思いますね。

○議長

私も今、気づいたとこなんですけど、スポーツを取り巻く環境という言い方、あるいはまた、大きいタイトルも「取り巻く現状と」と書いていますが、この「取り巻く」とか「取り巻く環境」という言い方がいいのかどうかにもなってくるような気が、それぞれ

書いていただいているのは、今の子どものスポーツの現状ですよね。

○委員

そうですね、環境というより現状ですね。

○議長

現状がそうで、そのための整えないといけないことがありますよというふうになってくると、この1のタイトルを、2のほうは、「本市における現状と課題」というのは、まだずっとタイトルとしては入ってくるんですが、今、委員から言っていただいたことも含めて検討を、再考したほうがいいかもしれないなとちょっと私も思いますね。

○委員

現状でいいのと違うかな。

○議長

取り巻くというと、何か。

○委員

大まかに5つの項目に分けてるから。そこから今度、細かく入っていくから。

○議長

そうしましたら、今、いただいた意見の部分は事務局のほうと、また検討していきたいと思います。

それで、一般論として、一つは、私、追加をしたほうがいいかなと思うのが、今、日本のスポーツの現状の中で、いわゆる運動実施率は上がってきてるんです。これだけキャンペーンを打ってますから当然なんですけど、一方では、その特徴は、ここにもある個人でやるウォーキングとかジョギングとか、そういう系統はすごく、いわゆるあまり組織しないで、勝手にやる分は多いんですが、大人に関して、いわゆる組織をつくって、集団でやるようなものの割合というのが、あまり高くないというのは、それはやはり日本全体もそうで、高砂市もそうだと思うんですが、一つのくくりとして集団でやったり、あるいはクラブ化したり、サークル化したり、そういうふうなところが課題ですねというのが、笹川スポーツ財団の調査等でも出てますので、そのあたりをちょっと入れていてもいいかもしれないですね。日本全体の話としても課題なので、それを今回新しくくりを考えていく上で、成人に入れるのか、高齢者とか熟年に入れるのかというのは、ちょっとまた検討しないといけないと思うんですが。

そうしましたら、ちょっと5ページのところは一旦、部分的にはペンディングもありますが、先に進みたいと思います。

6ページの本市における現状と課題というところをちょっと見ていただいて、またご意見をいただけませんか。

○委員

表現ですけども、(2)の成人のスポーツの状況についての①の「素人」、実にわかりやすいのですが、初心者であるとか未経験者のほうが適切ではないかと思います。

それと、5、6と関連ですけども、子どものスポーツとなって、中学校、高校生ぐらいのことが、(5)の競技スポーツには出てきているのかなと思うのですが、そこらがちょっとないかなと思うので、5ページ、6ページのそのあたり、委員、委員が言われた子どものスポーツの中にでも入れておいたほうが、現状はより把握してもらいやすいと思います。

以上です。

○委員

ちょっと質問、いいですか。本市における現状と課題というので、アンケート調査とかされましたよね。こういったものを活用しながら、現状を出していくというのが、そういう手法もあるのではないかなと思います。

もう1点は、文言で申し訳ないんですけども、何々する必要があるとか、1番でしたら、ゲームをして外へ出ない現状なのですが、並びが少し雑だと、もう少し整理して、現状というのと、それから、必要があるということが課題になると、そういういろんな分け方が必要かなと思って質問したのですが。

○議長

今、委員のほうから言われました、表現のところは、私も同感で、恐らく先ほど言ったように、急に追加したほうがいいですよと私は言ったもので、ばたばたと、委員の皆さんが検討会議で言った分を、何とか取り込めようということで、箇条書き状態で、とりあえず今日は出てしまっているんだろうと思います。そのところは、次回以降で訂正をするというふうな形で、5ページと同じようなやはり文章化をしないと、体裁としてもちょっと変な感じがしますので、そのあたりも現状と課題という書き方が、段落で区別できるようにしていけたらと思います。

それと、もう1点、アンケート調査なんですけど、ここでも議論になっていたと思うんですが、いわゆるきれいなサンプリングをしてやっていなかった、予算のことも含めてですよ。協力いただいて、そして、特定の職種の人だとか、あるいはそこにたまたま回答してもらったような人というふうな部分があるから、そこをどれぐらいまで使うかというのが、非常に悩ましいところで、実際にこの後、数値目標という、週に1回やる人を、よく国では増やしましょうとあるんです。今、50数%までとかと日本は言っているんですが、あのデータでいくと、高砂市は今66%なんです、週に1回やっている人が。でも、多分それはかなり偏った形での調査になっているので、そういう部分の使えないところはあまり使わないほうがいいかなあというふうな話をさせてもらいました。

ただ、それ以外のところで使えるところは、可能な限り、せっかく答えてくださった方もいらっしゃると思いますので、自由記述のところとか、あとそこから何とか読み取って、プラスアルファをしていかないといけないという気もしているところです。

○委員

それと、ちょっと文言ではわかりにくかったんですが、子どものスポーツの状況の1番の④なんですけど、「未就学児がいても、参加できる企画が少ない」という、子どものスポーツの状況の中に入れるという、ちょっと何か意味がよくわからないんですけど。お母さんですね。

○議長

そうですね、恐らく。そういう意味では、ここの区切りは(2)に移さないといけないところだと思いますね。

○委員

どっちかという、マイナスのことが多く記載されている気がするの、課題という銘打っているの、いいと思いますけれども、現状ということで、もっと高砂のいいところを記載していてもいいのかなと思いますね。それを生かして、今後さらにどうするか。相当皆さんからいい意見が出てきたと思いますので、それをここに入れ込んでいいかなと思います。

○議長

おっしゃるとおりですね。

○委員

並びのことですけれども、結局、ざっくり分けると精神的な、心理的なものですね、取り込みにくくて、そういうものと、場所が使いにくいとか、物理的なことに大体分けられると思うので、その順で並びを分けると、もう少しすっきりするのではないかと思います。

○委員

それは、子ども、成人とかいうものには分けた上でということですか。分ける意味ではなくて。

○委員

はい、そうです。ですから、細かく分ける先ほどおっしゃったやり方も、子どもという大きなくくりがあって、その中に少年、青年とあってもいいかなとか思います。

○議長

恐らく、これ資料3ですかね、ここの部分を結構反映していただいていますか。

○事務局

アンケートの自由意見欄と、SWOT分析のときに出た話を含んでいます。

○委員

2番の成人のスポーツの9番、スポーツの情報が入りにくいというのが、どういうことでしょうかね。インターネットでも、何でも、どこからでも引っ張ってこれるし、情報を取ろうと思ったら、取りやすいと思いますけどね。

○議長

意外とそうだけど、知らないことが多いということが会議で出ていて、でも、結局、それが実際のところ、あまり伝わっていないということですかね。

○委員

伝わってないというよりも、情報を取ろうとしたものが、情報発信をされてないために、情報が少ないと感じていることもあるのかなと思います。

いろんなブログが出てますけども、身近なスポーツに関して言えば、高砂市の中で情報発信がない。若い者はピピッと携帯にかけてますけど、それにヒットしないのいだろうと思います。

○委員

自分の欲しいものが入ってこないということですね。

○委員

多分ありすぎるのだと思います。選ぶ力が必要なので、どこを調べていいかわからないのです、たくさん出過ぎていて。

○委員

自分からそこまで調べに行くぐらいの人だったら、多分、情報発信しなくてもいいのでしょうかね。そこまでやる必要がない人にどう発信し、その人たちが簡単な、初期の検索だけでたどり着くかどうかというところが大事なわけで。

○委員

スポーツの情報が入りにくいというより、スポーツの情報が伝わりにくいと。

○議長

ここの情報の部分は、どこの市もそうですが、課題になっていて、みんな個人的にはホームページを持ったりとか、熱心なサークルとかはやるのですが、例えば、市としてやっている事業とか行事とか協会とか等も含めて、この日には何があるのだろうかみたいなのが、ある程度、一元的に提示される方向になればいいなあというのは、ある程度の、すごい大都市では難しいんですけど、多分、高砂市ぐらいのところまでやったら、できないことはないと思いますね。そういう意味では、先ほど言った、どうやれば伝わるのかというあたりは、考えていく必要があるかと思います。

あと、私、(3)の②ですか、これも多分全体にかかるので、この表現であれば、なくていいだろうなという気もするんですけどね、恐らく。

障がい者のスポーツとか、委員から出していただいたものが入っていると思うのですが、どうですかね、過不足あれば遠慮なく。

○委員

障がい者スポーツという中に、障がい者スポーツという表現の中で、結構よく言われるのが、障がい者しかできないということなので、言えば、障がい者だけのスポーツではなくて、多目的スポーツというか、誰でもできるといったところの表現のほうが、例えば、障がい者スポーツだからといって子どもさんができないことないですし、逆に言えば、高齢者の方でもたくさん、筋力を衰えさせないというところの面で、参加してる方ももちろんいます。

例えば、一つの種目例でいいますと、吹き矢とかいうような競技であれば、高齢者の方もすごく病院から来られて、肺活量を落とさないという、誤嚥予防といったところなので、すごく力を入れておられる方もいますし、あと、足の筋力は落とさないということもそうですけども、やっぱり障害者スポーツという中に、子どもさんでも無理なくできるというふうにしてもらえれば、障害者だけがするスポーツという認識ではなく、誰でもできるといふ、年齢も関係なく、男性・女性関係なくできるといった形で、多目的スポーツというような表現が一番これから必要になってくるのかなというふうに思います。

個々に目的は違うとは思いますが、体を動かすというところまでは、内容は一緒になってくるのであれば、そういった形で、目的は違っても、交流するというふうに思ってもらって、自分が困ったときに、例えば、自分がけがとかしない場合であれば、そういう骨折をしてギブスをつけないと足の不便さというのはなかなかわかりにくいと思うんですけども、なったときに、体を動かしたいと思っても、障がい者スポーツのところに聞きにいったら、自分が障がい者なのかどうかというふうに考えて近寄らないのも、そこに壁が一つあると思うので、そこが逆に言えば多目的という形で、自分が必要なときに相談をできるスポーツ、そして楽しめるスポーツと思えば、逆に言ったら、お孫さんと一緒に何かするであったりとか、そういったところでも、子どもさんたちとつながる場合に、どうしても提供できるものになるのであれば、多目的スポーツという名前のほうが、一番正しくなってくるのかなというふうに思いました。

○議長

趣旨の分は多分わかっていたと思うんですが、実際にスポーツ種目として障がい者スポーツという種目はあるわけではないんですね。そういう意味では、このカテゴリーを分類したときも、多分、どの立場で、いろんな立場でつくっておられる方がいらっしゃると思いますが、やっぱり普通に全てのところにその話が、障害を持った方も、子ども、高齢者の方もいるしというふうに入れていかねばならないところでは、まずあるんですが、特に今、この（４）の障がい者の方々への運動の機会、スポーツの機会の提供というのが、特に重点化されて、国でもやられていますので、今回、別枠にした流れです。

ただ、委員が言われるように、そこが勘違いされないような文書表現は、先ほども言いましたが、まさに多目的スポーツ、あるいはこのスポーツに障がい者の人がやるとか、健常者がやるとか、そういうふうなことにならないような取り組みも、実際に必要だろうと思います。

○委員

障がい者の方でニュースポーツに取り組むのは、できる範囲を自分たちで選んでされてますので、そういう機会をつくるということは必要じゃないかなと思います。

○議長

そのほかいかがでしょうか。よろしいですかね。

そうしましたら、５ページ、６ページについては、分類の区分けの部分のところは、また再検討を事務局としていながら、今日いただいたものを含めて、でも可能な限り、こういう議論を経て、あるいは結果、調査、調べたものもあるんだということも明示し

ながら、ここを豊かなものにお示しできるようにしたいと思いますので、了解ください。そうしましたら、次、行きたいと思います。

第3章、ここは説明よりもご意見をというふうに。事務局のほうから、特に第3章はいいですか。どうでしょう。

○事務局

資料4、基本理念（案）ということでお示ししております。高砂市の総合計画がございまして、総合計画が上に書いてますように、「すべての市民が様々なスポーツ活動に参加し、生涯にわたって継続的にスポーツを楽しめるよう、地域における身近な施設を拠点としたスポーツクラブの育成に努め拡充を図ります。」ということが、総合計画で述べているところでございます。

事務局の案としまして、この3つを考えております。

まずは、「すべての市民が様々なスポーツ活動に参加し、生涯にわたって継続的にスポーツ文化を楽しめるまち たかさご」、2番目が、「すべての市民がスポーツ文化に親しみ、健康でいきいきと暮らすまち たかさご」3番目が、「すべての市民が生涯にわたりスポーツ文化に親しみ、心身ともに健康な長寿社会のまち 高砂 ～市民ひとり1スポーツ～」という3つの案をお示ししております。

○議長

わかりました。基本理念のところ、8ページは、あえて空白にしています。総合計画の中で書いてます3行あると思います。資料4の☆印のところです。それがそのまま入っても構わないのですが、少しスローガンみたいな感じで、コンパクトに、これはよくあると思うんですが、市の全体でも何かそういったものがあると思います。そういうふうなものを理念的に表現したらということで、ここが空白になっているところです。それで、①から③、3つぐらいは出していただいたというようなことで、今日これに決めますよじゃなくていいんですけど、どんな雰囲気というふうに考えていただけたらと思います。

なかなか急に出ないでしょうね。多数決をこの場でするようなものでもないので、一応、事務局にも、キーワードは多分、スポーツとか文化とか、健康でしょうねという話はさせてもらいました。あとはもう、これ、決断するしかないの、という感じなのですが。

○委員

2番ぐらいでいいのと違うのかな。この前につけ加えなくても。

○議長

2番ですね。

○委員

この市民ひとり1スポーツが3番だけに入っているのには、何か意味があるんでしょうか。

○事務局

特にございません。市民ひとり1スポーツを1番、2番に入れていただいても結構です。

○委員

2つやるといけないの。1つのスポーツに限っているみたいなので、気持ちはせめて1つでもという気持ちで書いているのしょうけども、2つやるといけないのかなと。だから、あまり限定しないほうがいいのかあとという気がしますね。

それと、スポーツ推進計画なので、私はあっさり1番とかね、例えば2番は最後に健康で生き生きと暮らすまちというところで、確かにそうですけれども、何か1番のスポーツ文化を楽しめるというか、その辺を強調したほうがいいのかあとという気はします

けどね。

○委員

「生涯にわたって継続的に」というところもすごくポイントで、続けていただかないと意味がないのと、長く続けるという意味であって、生涯にわたってというのはいいと思うんですね。3番の長寿社会というのは、どうしても高齢者をイメージしてしまうので、一番、今抜けているのが、成人の方にアピールしたいというところであれば、ちょっと長寿社会というふうになると、まだまだ先の話だなというので、そっぽを向かれるような言葉になるのではないかなと思うので、だから、生涯にわたって継続的というようなものがあるとは思いますが、そのスポーツの後に文化がつくのは、何か意味があるのですか。どれもスポーツ文化というふうになっているのですけれども、単純にスポーツではいけないのでしょうか。文化はつけないといけないのですか。

○議長

これは僕の勝手なこだわりというか、それぞれ多分、スポーツって、いろんなかわり方があるだろうと。まさに、する、見る、支えるなんて言いますが、日本に一番欠けているのは、どちらかという正しい見方をしたり、あるいは今度、スポーツを支えたりする教育とか、あるいはそういうかわりが今、国全体もそうなのですが、そういうところも、一つスポーツの楽しみとして、するだけに行くと、展開はやはり限られているだろうなあと。それも含めてこういう言い方を、結構好んで、いろんなところで、あるいは文化としてのスポーツという言い方もするんですけど、そういう意味で、入ってはどうかあとというふうにちょっと言ったので、おっしゃるとおり、もし入れるなら、何か注釈を入れたいといけないかもしれないなと思っています。すっとは入ってこない表現かもしれないので。

○委員

私も文化を入れたほうがいいと思います。見る、する、支えるというのが。ですから、これは賛成です。

○委員

それと、どこかのページに仲間づくりというのがありましたね。その文言があればいいかなというふうな気もするのですが。

○委員

やはり、スポーツってするだけという側面だけではなくて、おっしゃった仲間づくりもそうですし、イベントをするにしても、スポーツだけのイベントに限らず、例えば、ボランティアと組み合わせるとか、何かやはり文化的なものと組み合わせるとか、スポーツ文化というふうにしたほうが、広がりを感じられるというのか、多様な感じがするんです。ですので、スポーツ文化という言葉は、私はそのほうがいいかなと思います。

しかも、楽しめるまちというようなところ、この文、すごくいいなと思います。計画的にスポーツ文化を楽しむという。

先ほど言われた1回だけで終わってしまうというのではなくて、続けていくということに大きな意義があると思います。

○委員

平仮名がいいのか、漢字がいいのか、ローマ字がいいのか、それも。

○委員

私も委員がおっしゃったように、生涯にわたって継続できるという文言がいいなあと、楽しめるというのはいいなと思ったんですけど、ただ、1番にすると、その前段の分にスポーツ活動に参加している全体が入ってしまうということで、その辺のバランスが苦しいイメージがあって、1番と2番がくっついた内容にならないかなというのは、ちょっと考えていました。

スポーツ文化を楽しめるというのは、何か夢があるというか、広がりを感じますね、個人的には。

○事務局

これは案でございますので、入れかえていただいても結構でございます。

○委員

今おっしゃったように、この文を消してしまっても、文としては成り立つし、よりシンプルになりますよね。すべて市民が生涯にわたって楽しめるで、十分ですよ。

○議長

そうですね。いかがでしょうか。

○委員

この流れでいうと、1番の方向に向かっているんですけども、一番目標を何にするかということですよ。楽しむのか、生き生きと暮らすのか、長寿社会のまち、これを先に決めるのではなくて、最終的に決まったらいいのかなと、ほかの部分含めて。先に決めないとだめということではないですよ。

○議長

もちろん、大まかなイメージは、多分、お話をさせていただいて、共有できているだろうと思うんですが、例えば、資料1をごらんください。わかりやすいので、基本理念のところ空白になっていて、基本方針が3つあります。先ほど事務局も言いましたが、3番はちょっと、やや質が違うのを入れています、基本方針を大きく2つ。1つは、生涯にわたって運動やスポーツにかかわる人をどんどん増やすようにしていきたいなあという。もう一つは、先ほど委員が言ったように、仲間づくりということにもなるんですけどね。地域づくり、スポーツで地域をつくりましょうよというふうな、この2つが今回の原案の二本柱と言ってもいいかもしれません。そのために環境を施設、情報を整えて、当然、ここもいろんな意味で書かないといけないので、あえて3に入れてますが、そう考えると、生涯にわたってというふうな部分とか、スポーツで文化というあたりは、今議論いただいているので、その方向でいいのではないかなとは、大枠を了解だけいただいて、あとまた個人的にでも結構ですので、意見を事務局のほうに、何か言葉は悪いですが、キャッチコピーみたいなものなので、高砂市は違うぞという、何かキーワードのようなものが盛り込まれたら一番いいかなというふうに私は思っています。

ですから、今いただいたことを含めてということよろしいでしょうか。

○委員

これは市民でないだめなのですかね。僕は高砂で働いてますけど、姫路市民なので、細かいところですが、高砂でスポーツをしたいというのは、同じなので。

○議長

よく大会なども在勤・在住に限るとありますよね、市の大会とかはね。でも、表現としてはこれで、別に在勤の人を外しているわけではないというふうに考えていただいているのではないかと思いますけど。

それでは、結論を決めてないですが、大体おおむね了解をいただきながらということで次に進みたいと思います。

資料1と、資料2第4章の9ページ以降を見ながら、見ていただけたらと思います。

では、事務局のほうからまた説明をお願いします。

○事務局

第4章に移ります。9ページをお願いいたします。

基本方針の内容でございます。

まず、基本方針1、生涯にわたるスポーツの推進でございます。

基本施策1として、子どもの運動・スポーツの推進を掲げております。

学校・家庭・地域が連携して、運動を行う機会の充実を図り、幼児期から体を動かす楽しさを体験し、運動に積極的に参加・参画できる環境づくりを推進します。ということで、施策の方向、子どもの体力の向上の例といたしましては、基礎体力、記録測定等々でございます。学校体育等の充実、例としまして、体力測定、③の運動、部活動の充実、例としまして、外部指導者との連携でございます。

次に、基本施策の2、成人のスポーツの推進。

スポーツに親しむ機会が増えていくように、日常生活のなかで気軽に運動量を増やせるような取り組みを推進します。ということで、方向といたしましては、①親子でできるスポーツの推進、(例)スポーツ教室、②健康づくりのための運動の推進、例としまして、ウォーキングとかニュースポーツ、③身近なスポーツ活動の推進、例としましてラジオ体操。

10ページをお願いします。

基本施策の3、高齢者のスポーツの推進としまして、心身両面の健康と体力づくりに取り組み、生涯にわたってスポーツに参加できるように、生涯スポーツを推進します。

施策の方向、①誰もが気軽にスポーツを楽しめる場や機会の提供、例としまして、スポーツ教室、②健康づくりのための運動の推進、例としましては、ウォーキング、ニュースポーツ、③身近なスポーツ活動の推進、例といたしまして、ラジオ体操、④生きがいづくりの推進、例としまして、スポーツクラブ21とかニュースポーツでございます。

基本施策の4番、障がい者のスポーツの推進。

障がいのある人が、障がいの種類・程度に関わらず、スポーツに親しむことができる環境づくりを推進します。

施策の方向としまして、障がい者が主体的にスポーツに参加できる環境づくり、(例)障がい者スポーツ大会の支援。

基本施策の5番、競技スポーツの推進。

競技スポーツは、観る人の心をつかみ、魅力あるものとして、スポーツの裾野を広げることにつながることから、市民がレベルの高いスポーツに触れる機会の確保や、優れた指導者等を活用し、競技の特性や選手の発育・発達状況に応じて、中・長期的な視点を踏まえ、スポーツ選手の育成を推進します。

施策の方向といたしまして、①各種スポーツ大会の開催、(例)スポーツ大会の開催、②指導者の確保及び養成、(例)指導者研修会、③競技力の向上、例としまして、体育協会の組織体制の充実、④スポーツ医・科学の活用、(例)講習会の開催。

2番の基本方針の2に、スポーツによる地域の活性化で、将来像としまして、スポーツの力による地域の活性化とまちづくりを活用した地域づくりを推進し、地域の活性化につながる取り組みをしています。

基本施策の1としまして、スポーツの力による地域づくり・まちづくり。

人と人との交流、地域の団体と人とのつながりを深めることで、地域活動を活性化し、スポーツの力による地域力の向上に資するものとなるような取り組みを行っていきます。また、これらの取り組みによる市への愛着や誇りを高め、スポーツの力による元気なまちづくりを推進していきます。

施策の方向としまして、①スポーツ事業の充実、例としまして、高砂マラソン、スポーツイベント、②スポーツ交流の推進、例としまして、彦根市、ラトローブ市、ドイツ、塩竈市もあります。③企業との連携、例としましては、浜風駅伝、④文化活動を取り入れたスポーツイベントの開催、これも例といたしまして、高砂マラソン。

続きまして12ページ、基本方針の3、スポーツ環境の整備。

将来像といたしまして、多くの市民が身近なところで、いつでもスポーツに親しめるようスポーツ環境が整い、スポーツ施設が健康づくりや生きがいづくりの場となってい

ます。

基本施策の1、スポーツ団体等によるスポーツ活動の支援。

競技力の向上と競技スポーツの振興に積極的に取り組むスポーツ団体等のスポーツ活動を支援します。

施策の方向、①スポーツ活動への支援、(例)補助、減免、②スポーツ人材の育成・顕彰、(例)スポーツ表彰、③情報提供・発信の強化、(例)広報、ホームページ、予約システム。

基本施策の2、スポーツ施設等の充実。

市民の身近なスポーツ活動の場を確保・提供するため、スポーツ施設や学校体育施設等地域のスポーツ交流拠点施設の環境整備を図ります。

老朽化したスポーツ施設について、施設の利用頻度や災害避難所指定の有無、市民の要望などを総合的に検討し、施設の安全性の確保や機能維持のために必要な整備を図ります。

施策の方向といたしまして、①施設の整備・充実、例として、修繕、改修、②施設の有効活用、(例)学校体育施設の開放、③効率的な施設管理運営の推進、例としまして、指定管理者制度の導入。

以上でございます。

○議長

第4章、先ほどから言ってますが、三本柱で3つ目が、その環境の整備というふうに入っています。それぞれこれまでの2章の本市における現状と課題のところとか、あるいは、カテゴリーのくくり方がちょっと再考する余地があるので、なかなか意見を出しにくいと思いますが、それぞれの委員の皆さんが見えているところで、こういう表現とか、あるいはこういう例をもう少し入れたほうがいいかなとか、ご意見いただけたらありがたいところです。

実際に、施策の方向というのが、全てあると思いますが、この施策の方向というふうなもの、ある程度例的にでもない、なかなかイメージが、その上の3つの話、上の3行とか2行の話だけでは、ちょっとわかりづらいので、方向という形で具体例を挙げてくれているというふうなスタイルとご理解ください。

そういう観点では、例であっても、あまり適切じゃないなという場合は、ちょっと遠慮なく言っていただけたら、あるいは追加をしたりというあたりも、忌憚のないところをいただけたらと思いますが、いかがでしょうか。

○委員

ニュースポーツという言葉がどれくらい浸透しているかわからないのですけれども、この言葉を聞くだけでは、ちょっと何のことかわかりづらいかなと思います。例えば、注釈を入れるか、何かわかりやすい表現に変えるかのほうが伝わるのかなと。わかっている人が見たら多分わかると思いますが。

○議長

そうしましたら、上の基本施策1から少しずつ見ていきたいと思いますが、まず、タイトルが、子どもの運動・スポーツの推進のところ、幼児期から、先ほど中高生のイメージが薄いという委員からのお話もあったのですが、その辺りも含めて、①、②、③とありますが、このあたり、何かもう少し、この対応があまりよくないなとかも含めて、ご意見いただけませんか。

○委員

あくまで例なので何ですけど、①の子どもの体力の向上で、基礎体力、記録測定とありますけど、だから何なのということ。まだ、③の部活動の充実で、外部指導者は専門家を入れるよというような意味合いは多少わかるのですが、体力テストして学校体

育の充実になるのかなと。進める具体性が具体的でないというか、それにつながっているのかどうかというのをちょっと疑問に思いましたね。

子どもの体力向上を目指すならば、例えば、スポーツイベントだとか大会とか何か開いて、そこで全体的に体力測定をしていくとか、チャレンジスポーツをすることとかというように、何か向上に結びつく具体例というのが必要ではないのかなと思いました。

○議長

ごもっともですね。

○委員

②の学校体育等の充実、これはすごく自分の首を絞めるかもしれないのですが、例えば指導者、教師の指導力の向上のための研修とか、学校体育等の充実を図るのだったら、指導者等の充実も必要になってきますし、体力テストは今でもやっていますので、中学校もやっていますね。

○委員

今もやっていますか。

○委員

はい。

○委員

昔兵庫県のスポーツ賞テストとって、初級、中級、上級と、メダルをもらったりしてたけども、そういうのはやっていますか。

○委員

県の金賞、銀賞とかはないですけども、文科省のほうで得点化されたものもありますし。

○委員

中学校、高校と絶対上級取ったとしてましたけど。100メートル、走り幅跳び、懸垂、ソフトボール投げなどね。

○委員

種目は大体一緒です。あと体力測定とね。

○委員

それはいいことだと思います。

○委員

文科省は、8種目言われてます。

○委員

それと、昔を思い出して、小学校の時分からマット運動をやっていて、これは体を動かすのにいい。将来的には柔道をしましたが、あのマット運動で体を回転させてすることが身につけていたものですから、何も苦なしに、受け身などできるようになったし、あらゆる方向に体を動かせるように子どもの時分になった。泳ぎだと速いけど、あの子、マットは全然ダメ、鉄棒すると全然ダメ、そんな子に育ててほしくないと思う。やっぱり将来的に中学校、高校になって、その子に応じたスポーツというものができるように、基本的な体づくりいうものがね、そういう高砂市にしてほしいなというふうに思います。

○委員

国の文科省のほうからも、体ほぐし運動、体づくり運動、計画の中から、いろんな動き、今おっしゃったように、転ぶとか、寝転ぶからはいいですね、ぼつぐとか、そういうものの見直しというところで充実を図るようにと文科省から出てますけどね。

○委員

やはりそうだと思います。

○委員

それをさらに充実させていかないといけないですけどね。

○委員

そういうことです。

○委員

体力テストですけど、した後で何かフォローがあるのでしょうか。例えば、こういうところがうちの学校はちょっと弱いから、そこを重点的に筋力アップとか。

○委員

それはやっておられると思います。学校の中で学校保健委員会といって、校内のPTAの方や教師などで集まった委員会活動があるのですが、それは健康面、保健面と運動能力面というので、この資料を出させていただいて、そこで、うちの課題は走りがちょっと弱いとか、柔軟性が弱いとか、そういう中で動きまして、子どもたちにどういう運動をさせたほうがいいのかとか。

ちなみに高砂は投げるのがちょっと弱いんですよ、一般的には。もちろん投げ方もですし、今、サッカーとかあって、野球離れ、ソフトボール離れ、競技のほうでも少なくなってきたと聞いているので、投げるということについては、今、高砂市は弱いみたいです。一般的にですよ、その学校、学校によってはまた課題がありますし、中学校は中学校で課題があります。

○委員

大体、小学校も中学校も劣っている種目であるとかは似たり寄ったりで、小学校の体育部会、中学校の体育部会がありまして、市全体で取り組めることプラス各学校とも課題に対して、取り組んでやっています。

先ほどのついでですけども、子どもの体力の向上というところで、委員がこの例について言われてましたけども、やはり学校体育だけでなく、スポーツクラブとかもありますよね。先日、ちょうど委員と一緒にいたのですが、県の県体育研究会がありまして、ちょうどサッカーの競技委員長が来られてまして、子どもの発育状況、発育段階を、指導者は知っておいた上で、どの年齢、どんなときにこういう指導をするべきかというのをわからずして、いまだに指導を続けている人が多いというようなこと。サッカーはそのあたりを先取りしながら取り組んでいると。そのあたりも、入れて、この10ページの(5)の基本施策の一番下、④ぐらいに当たるのかなと思うんですけど、スポーツ医・科学の活用に講習会の開催等があるので、そのあたりで、指導も含め、指導者講習もやはり必要だと思います。

○委員

それは必要だろう。間違った指導をよくしてしまっているからね。

○議長

そうしましたら、ここの部分、当然、学校期なので、両委員の把握されている部分とか、あるいは教育委員会のほうの保健体育関係の取り組みとかを含めて、事務局のほうで整理をもう一回してもらえますか。

今、やっていること、もっと今後にやっていくべき必要がある、そのあたりの優先順位とかもつける必要があるかなと思いますので、きょうの段階は、こんな感じだというふうなことは皆さんご理解いただいているので、内容の精査をして、この1番ですね、もう一回、再検討をお願いしたいと思います。

多分、最初に出ました幼児に、あるいは小学生に、中高生にというふうな見え方が読み手にわかるようにしていかないといけないとも思いますので、そのあたりも大変ですが、事務局で再検討をお願いします。

ちなみに③は、これ別に点は要らないですね。単なるミスですよ。

- 委員
運動部活動。
- 委員
運動と部活動という意味ではないんですか、運動部の活動ではなくて。
- 議長
そういう意味か。
- 委員
部活動もスポーツ以外もありますし。それをどっちもとれるような言い方ですね。する、見る、支えるやったら、吹奏楽部とかもあるしね。
- 議長
なるほど、そう考えたらそうですね。
- 委員
それでも、後ろの外部指導者との連携というところを見たら、やっぱり運動部活動の充実ということに。
- 議長
わかりづらくて。
それと、よく今、中高生で問題というか、課題で難しいのですが、日本はやっぱり学校の中で部活動をするので、いわゆる受験に向けて引退という制度があって、そこで体が、一番怠けてしまうというか、残念ながらトレーニングしたものとかが、もう全部。その場をどうやって確保するかというのは、大きな課題で、そのあたりもちょっと書く、書かないは別にして、ぜひ頭に入れておいていただけたら、今後、政策ですね、具体的にするとき、重要なことではないかなと思いますので、披露させていただきました。
では、2つ目ですね、成人のスポーツも、あと3、高齢者、多分ここあたりですね、込みでいいのですが、施策2、施策3のあたりは、先ほどいただいたニュースポーツという表現自体をちょっと考える必要があるということ以外に。
- 委員
健康づくりのための運動推進、確かにそうなのですが、ちょっと大ざっぱ過ぎるかなという印象ですね。そして、ウォーキング、ニュースポーツというのはわかるのですが、これは来てくれた場合ですよね。ですから、その前の段階だと思うんですね。いかに底上げをするかという、そこだと思いますので、表現がもう少し考えたほうがいいかなと思います。
- 議長
健康づくりのための例えば運動の必要性を啓発するとか、そういうふうなことですよね。
- 委員
いかに気づきを増やすか。
- 委員
この③の中にスポーツクラブなど入れてもいいんかなと思うのですが。
- 委員
3番の高齢者のスポーツの推進のところの①なのですが、誰もが気軽にスポーツを楽しめる場や機会の提供、これは成人にも、それから子どもにも当てはまることだと思うのです。先ほどおっしゃった、引退したときに体を動かす場所がないというときに、こういうところに気軽に参加できれば、そういう場にもなれますし、あと子どもの場合、ゴールデンエイジの重要性がよく取り上げられていますけれども、小学生の低学年などは、いろんなことをしないといけない時期なんですね。ですから、スポーツを絞ってしまうのではなくて、いろいろ体験することが重要になってきますので、そういうところ

で、少しでも体験して、参加しないといけないではなくて、あっちこっちと色々なことをできるというのはすごく重要なことでもありますので、そういう場が柔軟になればいいのになと思います、この高齢者の部分ですけれども。

○委員

2番の成人のスポーツの推進ですけど、先ほど委員がおっしゃったように、1番の親子でできるスポーツの推進というのが、すごくいい提案だなと思って、成人の方で一番運動量が少ないというのは、子どもに手がかかったりという時期で、子どもは、例えば陸上競技に行かせているけど、親は見ているだけとかいうことが多かったです、そういう人たちも巻き込めないかなというのもありますし、あともう一つ、また面倒な提案なんですけど、運動会というのは、親御さんが必ず見に来られるかなと思うので、そういうところで親も一緒に参加できるような、もちろんいろいろあると思うんですけど、でもいきなり走って転んでけがしたりとか、また筋肉痛を起こしたりとかいうこともあるので、親も一緒に楽しめるような場、運動会に行ったら飲んでるような、そういうことではなくて、運動会を利用、活用したら、親御さんも巻き込めるような感じで、それで日ごろの運動不足をそこで認識していただいて、やっぱり何か始めないといけないかなということのきっかけをつくっていただくのに、親御さんが必ず出てくる場が運動会だと思うんで、ここをちょっと一つ活用できないかなというようなことを思ったんですけど、これは提案なんですけど。仕事を増やしてしまうのですが。

○委員

小学校も中学校もPTAの参加種目というのは、それだけなんですよ、大概ね。それ以上増やす余裕もないし、今言われてたけがが大変、もう運動にならないのです。綱引きしてもね。

○委員

そういう何かこう。

○委員

なかなかPTA競技だから出てください、出てくださいと言われてますけど、ほとんどが出られてないですね。勧めるのに苦労されてるみたいですよ。

○委員

そうですね。だから、全員参加型みたいな、ラジオ体操でもいいとは思いますが、巻き込んでいけるような機会をどんどん。綱引きとか。

○委員

誰でもができるものを勧めないことには、けがするおそれのあるものを勧めるということはやらない。

○委員

去年アキレス腱切っちゃってでした。私が、見てるところでこけられて。

○委員

子どもはふだんからしてるけど。

○委員

低学年だったら親子フォークダンスとかね、そういう形で実際出ていただいたこともありました。新年生ぐらいの親御さんというのがね。高齢者の方と玉入れしていただいたりとか、そういうのは、小学校ではしていましたが、今のラジオ体操はいいかもしれないですね。

○委員

ブームですしね。

○委員

そういうことをちょっと考えていきたいと思います。可能だと思いますね。

○委員

高砂市のことをよく知らないで申し訳ないですけど、僕が出身の大阪の茨木市で、何か小学校、中学校の運動会とは別に、地区運動会というのがあって、その地区の子どもから大人までが、対抗ではないですけど、運動する大会があったり、そういうのはあるのですか。

○委員

あったんですよ、町民大会がね。

○委員

昔は市挙げてのレクリエーション大会があって、各地区から、小学校から高齢者まで出る大会があったのですが、なくなりました。いろいろなことを。参加のこともあるでしょうし、お金がなくなったのではないか。

○委員

それに合わせて秋に、総合運動公園に各種団体さんに多分、動員がかかっていたと思うのですけど。

○委員

そうですね。

○委員

柔道から何から、テニス、野球ね。

○委員

まだ続けております。

○委員

各種団体さんが一斉に行進して、各体育館でそれぞれやって、一日、高砂市でやったという、あれは、私、聞いてて、スポーツ、どこで何をやっているかわからないとか、そういうのも、あっ、こんなグループもある、サークルがあるんだとかいうのは、あの時代よかったのかなあというような、思い出しながら競技に参加させていただいているのですけどね。あれも陸上競技場に足を運ばなければ、情報発信にはならないのですけど、そういう機会も今はなくなってしまった。

○委員

それと、委員が今言われるように、僕はもう大分前から体育館のほうにずっと言っていたのですけど、というのは、いわゆる高砂市で優秀な競技者、選手をたくさん輩出しているのです。その表彰状、メダル、展示が一切ないんです。北村聡君、どれだけ活躍したか、前田桂子、どんなメダル、世界選手権でとってきたか。メダルの掲示も何もないんです。写真でもいいから、市民のみんなに見せてあげて、子どもは頑張ればこうなるんだと、この子、一生懸命頑張って、こんなに強くなったんだというようなことを、親が子どもに教えられる絶好の場だと思うのです。

表彰状、どんなに、誰が活躍しようと、みんな体育館の隅へ重ねて置いたままになってしまっている。この間スポーツ少年団が兵庫県から、全国からでも表彰された、それもしまったままでしょう。全然掲示がないわけです。だから体育館の一部を、アクリル板の鍵のかかる、安くてもいいから、そういうところにずっと掲示してあげたら、ああ、ここへ来ればこういうものが見れるんだということで、やっぱりそれが市民の多くの人に知ってもらえるという場になると思うのですけどね。

○議長

今いただいている意見というのは、委員から出た地区の運動会のことを含めて、ご意見いただいたのですが、恐らく11ページの地域の活性化という部分に入れていくほうがいいかなと。ここはまた、じっくりお考えいただく必要があるのですが、また、改めて、ああいう地域をつくるためにスポーツを活用してきた時代がある。それが行き過ぎ

て、動員とか、無理やりというふうなことにもなっていて、あわせて予算のことを含めて、大体やめていく決断を行政はしています。それは大体同じだと思います。世の中が変わってきているので。

かつてぶつぶつ言いながらも出て、お昼からお酒飲んだり、そんなこともできてたので、まあまあよかったのですが、もう今は一切そういうのもなく、だから、やっているところも、自分の種目だけ終わったら、帰っていくような、すごい寒々とした状況になるので、いわゆる一日そこで過ごすということがあればよかったのですが、ただ、一方では、それを復活させようというふうにやろうとしているところもあります。あえて、こういう時代だからこそ、ブーブー言う人もいるのだけど、やりましょうと。そのあたりは、まさに市とか市民の皆さんがどう決断されるかということにもかかわってきますので、一つの話題として、重要ななと私は思います。

それと、副議長が言われた部分は、12ページですかね、スポーツ環境の整備として、まさに憧れの対象としての表彰とかいうのを、12ページの(1)の②のところに、そのあたりをどういうふうにするのかという点にもなるかと思いますが、ちょっと事務局のほうもメモしていただけたらと思います。

それでは、この施策2、3のところは、かなり分類とか年齢区分等で考える必要があるのですが、今出たようなことを含めて、もう少し具体的に記述するような方向でいきたいと思います。

続いて、4と5、一緒に行きましょうか。障がい者のスポーツの推進と競技スポーツの推進という、10ページですね。

私、先ほど委員の意見を聞いていて、ぜひ入れる必要があるのは、まさにいわゆる障がい者スポーツとしてよくやられている、例えばシッティングバレーだとか、あと今度、目が不自由な方がやっているゴールボールだとか、いろんなものがあるのですが、別にそれは健常者がやってはいけないわけではないし、むしろ今、いろんな地区で問題になっているのは、プレーをする相手がないのですよね。だから、数がやっぱりいらっしやらないとゲームはできないのですが、例えば、視覚障害の方は、今どんどん減っているのです。じゃあ、健常者の人がアイマスクをつけて一緒にプレーをしてあげる必要があるのです。でないとスポーツを楽しめないのです、そういう意味では、普通のいろんな場で、さっきニュースポーツとしてくくってもという言い方をされたのですが、普通にいわゆる障がい者スポーツとして広がっている、そのスポーツ種目を体験をしたり、普及をしたり、そういうふうな部分が多分必要になってくるだろうと思います。多くの方は、シッティングバレーは障がい者の人がやるバレーボールですって、実際にでも、そんなことはなく、非常にハードな、ある部分をすごく使う、ハードな運動ですけど、そう考えていくと、多分ここ、実際に施策の方向になります、当然、障がい者スポーツ大会の支援はもちろんなのですが、そういう観点での普及というか、認知を広げるといのは、入れてはどうかあというふうに私は思うところです。

あとはいかがでしょうかね。恐らく5についても、先ほど出ました指導者の質の向上とか、この文言は、僕はちょっとわからないけど、体育協会の組織体制の充実と書いているのは、どんなイメージを持ちますかね。

○事務局

体育協会、各種目協会がございまして、その種目に関しては、一生懸命やられていると。でも、協会と一体となってスポーツを推進していくという、組織の充実で。

○議長

表現もですね。そのほかいかがでしょうか。

○委員

きのうたまたまテレビで見たのですが、国立スポーツ医・科学研究クラブの選手が、

すごい科学的な取り組みをできる先生とか、あそこまでは無理ですけども、あんな感じのものを高砂につくってしまって、そういうトップ選手を集めるというのはどうかなと思うのです。すごいお金がかかりそうですけれども、だから、ある特定の、一部に関しては高砂に行けば指導してもらえるとかな、そういう何かトップクラスのものを1個つくってしまえばどうかなと。予算の面はちょっとさておいて。

○委員

スポンサーが欲しいね、そういう場合は。

○議長

一つは、競技スポーツに限らずですが、こういう計画のときに、市によっては、これが一番売りですよみたいなを決めて、それで計画をつくることもあります。特にかなり環境的に限られたとことかね。それができたら、今の話も、そんなにお金がかかる問題、でも、多分いっぱいあると、その人たち全部を満たすためには、大変なことがあるし、では、どれを選択するのっていうことにも多分違うバトルが出てくるので。

○委員

発信とか。

○議長

そう考えると。現状とも絡むので、またそのあたりをちょっとしっかり把握してもらって、現実的なところを記述できたらというふうには、個人的には思っています。

それでは、時間も来てますので、あと基本方針2と3をまとめてごらんください。

2のほうは、先ほど言いましたが、地域の活性化、地域づくり、仲間づくりみたいなところとご理解ください。

これも議論で出ました企業というふうなところと、可能な限り、今後、連携する可能性を探ろうというふうな話、あるいはスポーツとはこれまでどちらかと言えば距離のあった文化的な文化活動とのジョイントみたいなあたりで、新しい人のつながりをつくりましょうというふうなことが趣旨だろうとは考えるのですが、例は多分今あるものを書いている。このあたりがもう少し何か具体的に出てくればいいかなとは思っていますが。

ここに一般的にはですけど、スポーツクラブ21も、出てこないといけないことだろうと思います。

○委員

これに似たようなことかもしれないませんが、よくやっているのがタウンウォッチングということですね。これはウォーキングにも通じるのですが、文化にひっつけてということになると、そういう歴史遺産をめぐって歩きもあるという。だから、そういう歴史の勉強というか、そういうこともしながら、運動にもつながるとい、そういう意味では各地域でいろいろやっていますけども、タウンウォッチングみたいなものを、もう少し広がっていければ、スポーツという範疇を広く見れば、そういうものも入るのかなという気がしますけど。現実にスポーツクラブ21では、そういうふうにウォーキングマップ作りまして、名所旧跡をめぐり、各地域にあるものを掘り起こして、一応、そういうウォーキングマップをつくって、みんなで活用させていただいています。そういうものをもっと一般の方にも、もうちょっと広げて、今やっている最中ですけど。

○議長

すごいすてきな取り組みだと思えます。

○委員

委員の意見、ちょっと思いついたというか、電車に乗っていると、何か山陽電車が主催なのかどうかわからないのですが、各地域を歩こうという企画がありましたので、高砂近辺のものにも、高砂市でのっかって積極的に参加を推進するとか、そういうことはいいかなと思います。外部のものに、高砂市が主催しなくても乗っかれば、人も動員

できるでしょう。

○委員

文化的なことという、文化との協働と言えば、今とても多いのが、グリーンイベントですよね。グリーンイベントとスポーツイベントの合体化したスポーツがどこでも行われていて、高砂には市ノ池公園がありますよね。ですので、それと、ウォーキングとかハイキングを組み合わせて、高御位山も使えますし、そこで広がりが出ると思います。

○議長

そのあたりが少しでも具体的に出てきたらいいかなと思いますね。

あとは、先ほど出ました、いわゆる地縁のつながりを大事にしたものをどんなふうに扱うかというところですね。今、出ているのは、あるテーマについて関心がある人を呼びましょう、それで集まれというふうなスタイルで、こういうコミュニティの形成の仕方も一方では。もう一方で、住んでいるところのつながりを何とかしたいという思いを、そのあたり高砂市がどうするのかは、ちょっとまたペンディングしながら、事務局にも、これまでの多分いろんな経緯があると思うので、判断いただきながら、次回のところで考えていきたいと思います。

では、12ページの環境の整備のところです。1、2にあるようなことを支えるために、施策1、2がありますよと。施設と、あと団体等の支援ですというふうな、ここも非常に悩ましいところです。一番お金がいろいろ動いたりするので、何ですが。

○委員

以前から企業との連携は、こういうことでできているわけなのですけども、今もいろんな企業でやる、高砂市工業地帯で多くの企業があって、スポーツに関していろいろ貢献している企業がそれぞれあるわけなのですけども、一般の人はどんな貢献しているかわからないという。我々もよくあるところから、子どもの野球教室をしたいから子どもを集めてくれとかいうことで集めて、それでしてもらったりとか、そういう地道なことをしているところがいろいろあるわけなのですけども、そういう、ここの1番のところで、スポーツ人材の育成・顕彰、表彰ですね。表彰のところを、スポーツでいい成績を上げた人だけを表彰するのになしに、支えてきた、こういうふうに支えてますよと、貢献してますよというような企業を表彰したり、紹介したりとか、それを高砂の広報に年1回載せるとかいうようなこともしながら、市と企業、市民と、企業だけでなしに団体もあると思うんですけども、そういうところを光を当てるといいますか、したらいいいのかなと思います。

それと、もう1点、指導者ですけども、スポーツを盛んにするには、やはり指導者の充実ということで、そういう指導者も、学校ごとにおられるということも、企業ごとに多分おられると思うのですけども、それ以外でも、過去、自分がやってきたことで指導したいというふうに考えられている方もおられると思います。ボランティアをしたいと考えておられる方がおられるのではないかとということで、そういう指導者の登録制といいますか、そういうものもしながら、いろんなところに応援に行けるとか、私はこんな指導ができますとか、そういう仕組みづくりというのも、ここで環境整備の中でしていったらどうかと思います。

○議長

2点目言っていたのは、多分、人材バンクみたいな登録者制度、このあたり市として、個人情報のこともあるのですけど、やはりある程度、何とかできるようにしたほうが、確かにいいかなというふうな気は、私もします。

○委員

生涯学習課のほうで人材バンクがあります。

○議長

そうですか。

そのほかいかがでしょうか。

○委員

(1)、(2)で1つずつですけど、(1)のほうの情報提供・発信の強化のところ
で、ホームページ、予約システムと、パソコンを使うところで抵抗感のある人も多分
いると思うので、例えばもうピンポイントで、こういうイベントがある、こういうこと
をしたい方はこちらに連絡してくださいという紙を各家のポストに配っていくとか、そこ
には例えば電話、ファクスとかホームページ、あと受付場所みたいな、幾つか連絡手段
を書いておいて、どれでも、そういう目的の情報にたどり着けるようにするというのは
どうかと。広報たかさごの中の一部に書いて、見てしまうという方法で、ピンポイン
トで、市としてこれを広めたいというときは、アナログに宣伝していてもいいのかな
と思います。

それが1つと、2番のほうのスポーツ施設等の充実で、企業はスポーツ施設を持って
いるところはあるので、立派なグラウンド、ラグビーとかサッカーができるような施設
がありますし、舗装された全天候型の陸上競技場みたいなものを持ってますので、若干
の維持費みたいなものを市から出すかわりに、市民に開放する日をつくってもらうとか、
そういう企業の施設を活用する方法があればなと思います。

○議長

そのほかいかがでしょうか。よろしいですかね。

そうでしたら、最後、第5章を簡潔に、お願いします。

○事務局

13ページをお願いします。

第5章、市民が一体となった計画の総合的推進でございます。

先ほど概要説明しましたとおり、この計画の推進には、市民、団体、行政等の連携が
あって初めて実現できるものであり、それぞれの期待される役割を掲げております。

15ページをお開き願います。

スポーツ推進のためのネットワークのイメージ図でございます。

○議長

15ページの図が、もうコンパクトで関係するものがこれだけあってというふうなこ
とで、これも急遽つくってくださったので、まだなのですが、趣旨だけご理解をいただ
きたいのは、タイトルにあります「市民が一体となった」と、あるいは各種団体が一つ
の協働、連携という中で動く必要があるよというふうなことだと思います。

何か、ざっと見ていただいて、気になるところがありましたら言っていただけたらと思
います。

○委員

この図の参加のところに、運営というのもちよっと入ったら。参加だけじゃなくて、
市民が。

○議長

そうでしたら、時間が大分来ておりますので、とりあえず第1章から第5章まで、
ざっと、大体骨子だけを見ていただいたような形、あと問題点を出していただいたとい
うふうになりましたが、最後に何か言い忘れたこと等がありましたら、一括して。

○委員

今、運営も入れるということが出ましたけども、市民は待ってるんじゃないくて、市民
の責任もあると思うのです。どこかにそれを強調する場所があればいいなと思いました。

○委員

第3章の基本理念の空欄の下に文章があって、「これまで」というところ5行あって、

「引き続き」が2行あって、新しくスポーツ推進計画をつくるので、これまでということとはもう書かなくて、今後どうするということだけ書けばいいのではないかなと思いました。

○議長

重要な割にそこが足りないよということですね。

○委員

これは、これからやることとして書いてもいいかなと。市としてはこれまでやってきたことだと思うのですけれども、そこは何かこれらと引き続きと書くと、同じことしかやってないのかなというふうに見えるので。

○委員

その基本理念ですけれども、いろんな言葉があって、迷うところがあって、まとまらないと思いますので、やっぱりこういうときって、キーワードというのがすごく必要だと思うので、生涯にわたってとか、継続的であるとか、先ほど健康で生き生きであるとか、スポーツ文化だとか、そういうキーワードを、箇条書きじゃないですけど、ピックアップして並べて、それをつないでいくような作業で基本理念ができたらいいなと思うのですけど。

○議長

そこは考えていきましょう。

それで、私も今気づいたのですけど、このスポーツ憲章というのは、これは今、高砂にあるものですか。

○事務局

そうです。総合体育館ができたときに竜山石、この辺の石で、スポーツ憲章ということで刻まれて、大きな石に書いております、その文言です。

○議長

これ多分、位置づけにスポーツ憲章と書いて、一応、4つあるんだけど、これ上とどんな関係なのかということがわからないので、そのあたりをどうするかは考えたほうがいいと思いますね。基本理念の中に、例えば、これまでスポーツに関する、市としてのものはこういうものがあると、それを踏まえて、何かこう新たにバージョンアップして、今回、こういうのをつくったとかね。これはどちらかと言えば、子ども中心な感じのメッセージにも見えるしね、その辺がちょっと僕もつくった経緯がわからないのですけど、この8ページのところは、また考えたほうがいいかなという気がしますね。

よろしいでしょうか、あとは。

そうしましたら、貴重な意見、いろいろありがとうございました。次第で最後、その他のところ、今後のスケジュールということで、事務局から説明をしていただいて、あと、閉会のほうに行きたいと思います。

○事務局

今後の予定でございますが、本日いただいた意見をもとに集計しまして、6月にはパブリックコメントを実施したいと思います。パブリックコメントの素案の確認としまして、5月に検討会議を開催したいと考えておりますので、皆様よろしくお願ひします。

また、会議開催までにご意見などございましたら、文化スポーツ課までお願いいたします。

また、スポーツ推進計画の冊子に写真を掲載したいと考えております。写真を掲載する場合、本人の了承が必要ではございますが、何か載せたい写真がございましたら、文化スポーツ課までお願いいたします。

○議長

(日程調整)

次回、4月30日、水曜日ということをお願いします。

そうしましたら、長時間にわたりありがとうございました。本当にお疲れさまでした。議事全て終了しますので、事務局のほうに最後、進行をお返ししますので、よろしくお願ひします。

○事務局

それでは、最後に、健康文化部長から閉会の挨拶をお願いします。

○事務局

(あいさつ)

○事務局

それでは、これにて散会いたします。

どうもありがとうございました。

(午後 9時15分 閉会)